

安全就業だより第232号

安全就業対策委員会

令和2年8月10日発行

茨城県シルバー人材センター連合会において 表彰されました！

7月号で、茨城県シルバー人材センター連合会及び全国シルバー人材センター事業協会
安全就業スローガンに選ばれたと紹介しました伊藤会員が、7月10日茨城県総合福祉会館
において、茨城県シルバー人材センター連合会より表彰されました。

全国統一スローガンに選ばれるのは茨城県においても初の快挙と言うことで、綿抜県シル
バー人材センター連合会長から表彰状と記念品が授与され、その栄誉を称えられました。



表彰式での綿抜会長（左）と伊藤会員（右）

暑中お見舞い申し上げます。

熱中症の発生は、7～9月がピークです。急に暑くなった日は危険性大。こまめに水分補給を行い、体調管理に十分気を配りましょう。

また、植木・除草等の屋外での作業は、お盆の期間、休みになっていることと思います。お盆休みが終わり作業を再開する時は、休んでいた分、体が暑さに慣れていないことも考えられます。

作業を再開するときは暑さに十分体を慣らし、ヘルメット等の安全保護具を必ず着用し、無理せず作業を再開しましょう。

夏の間は、常に気を抜かずに、熱中症対策を心掛けましょう。

熱中症対策は万全ですか？

熱中症とは

熱中症は、高温多湿な環境に長くいることで、徐々に体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態を指します。屋外だけでなく室内で何もしていない時でも発症し、救急搬送されることや、場合によっては死亡することもあります。



熱中症の症状

- めまい、立ちくらみ、手足のしびれ、筋肉のこむら返り
- 頭痛、吐き気、嘔吐、倦怠感、虚脱感
- (重症の場合) 返事がおかしい、意識消失、けいれん、からだが熱い

予防のポイント

- 日頃から睡眠や栄養バランスの良い食事を十分にとるなど体調に気を配る。朝食抜きは厳禁である。
- 作業前・作業中・休憩時などに水分をこまめにとる。大量に汗をかく場合は、塩分もとる。また、のどが渇かなくてもこまめに水分補給を行う。
- 就業場所の風通しに配慮する。
- 服装は、通気性や吸湿性の良いものを身につけ、高温下では頭部や首筋に冷やしたタオルを巻き、屋外では帽子をかぶる。
- 就業中は、無理をせず、冷房のある施設や日陰などの涼しい場所で、休憩を十分にとる。
- 屋外での単独作業の場合は、定期的に連絡を取る。



熱中症が疑われる人を見かけたら

- ① すぐに涼しい室内や風通しの良い日陰などの涼しい場所へ避難させる。
 - ② 衣服をゆるめ、からだを冷やし安静にさせる。
(特に、首の回り、わきの下、足の付け根など)
 - ③ スポーツドリンクなどの水分を与える。(水分・塩分の補給)
- ※ 自力で水が飲めない、呼びかけに応じない、意識がない場合は、直ちに救急車を呼ぶ。

事故概要

性別	年齢	発生日時	場所	事故状況
男性	70	令和2年 6月18日	除草作業 現場	水道施設内を除草作業中、誤って刈払機で水位計のセンサーケーブルを切断した。

7月号で紹介した上記の事故において、損害賠償金額が100万円を大きく超えることになりました。 一見ありふれた機材に見えても、ものによっては高額なものが隠れているようなケースも見られます。今回の事故のように、特に水道施設や工場内での作業の際は、普段以上に作業前の現場点検を徹底してください。